

| | | | |
|--------------------|---|---|----------|
| 開講年度 | 令和 8 年度 | 開講課程 | 博士前期課程 |
| 授業名 | 形態機能医学特別研究 | | |
| 開講キャンパス | 紀三井寺 | 教室 | 各研究室 |
| 科目区分 | 特別科目 | 配当年次 | 1 ～ 2 年次 |
| 必修・選択の別 | 選択 | 単位 | 1 2 単位 |
| 対象学生 | — | 使用言語 | 日本語 |
| キーワード | (システム神経生理学) シナプス伝達 (統合分子生理学) 細胞イメージング (機能調節薬理学) イオンシグナル制御、薬物の作用 (分子病理学) がん | | |
| 担当教員 (下線：科目責任者) | 医 | (システム神経生理学) 教授 小林克典、講師 井辺弘樹 (統合分子生理学) 教授 中田正範、准教授 廣野守俊、講師 稲葉秀文 (機能調節薬理学) 教授 西谷友重、講師 納富拓也、講師 陳 以珊、助教 安田純平 (分子病理学) 教授 江幡正悟、講師 及川恒輔、講師 中西雅子 | |
| | 薬 | | |
| 授業の概要 | システム神経生理学、統合分子生理学、機能調節薬理学、分子病理学の各分野において修士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究課題の設定から研究計画の立案、調査・分析などの方法を理解するとともに、計画に沿ってデータの収集・解析や実験を遂行する。また、各分野における地域の保健医療課題等に関する研究を実践し、その成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につける。 | | |
| 到達目標 | <p>(システム神経生理学) シナプス伝達や神経細胞活動の研究手法を修得し、自身の実験結果についての議論と発表ができる。</p> <p>(統合分子生理学) 生理学的実験手法を用いてデータを収集し、解析・考察する能力を涵養することで、研究成果を発表する。</p> <p>(機能調節薬理学) 興奮性組織におけるイオンシグナル制御機構と解析方法を修得し、各種薬物の作用を検討することができる。</p> <p>(分子病理学) がん研究で用いられる基本的な手法の修得を目指す。</p> | | |

| | |
|--------------------------|---|
| 授業計画 | <p>(システム神経生理学) 中枢神経標本に電気生理学的手法や生化学的手法を適用して実験データを取得し、実験結果と関連文献に基づいて議論を行い、論文作成を指導する。(小林克典/井辺弘樹)</p> <p>(統合分子生理学) 生理学的研究によりデータを集積し、文献の収集と議論を行い、研究結果の解析と考察を進めて論文作成を指導する。(中田正範/廣野守俊/稲葉秀文)</p> <p>(機能調節薬理学) 興奮性組織におけるイオンシグナル制御機構の解明と薬物の作用について研究指導を行う。またデータ収集・解析、論文執筆など論文作成の指導を行う。(西谷友重/納富拓也/陳以珊/安田純平)</p> <p>(分子病理学) 形態学的情報・遺伝子発現に基づくがん細胞の形質の解析：形態学的な情報や遺伝子発現の情報に基づき、がん細胞が獲得している悪性形質を評価する研究手法を指導する。(江幡正悟/及川恒輔/中西雅子)</p> |
| 授業の方法・形態 | 演習を中心とする。 |
| 使用するメディア | パワーポイント等によるスライド資料を使用する。 |
| 成績評価の基準 | 研究への取組100% (研究課題の設定内容、研究の遂行状況) によりS (90点以上)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。 |
| 授業時間外の学修に関する指示 | 教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。 |
| オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応) | 担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。 |
| 教科書・参考書 | <p>(システム神経生理学) 特に指定しない。</p> <p>(統合分子生理学) 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(機能調節薬理学) 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(分子病理学) 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> |